

「全鍍連」 2018年 6月号 巻頭言

全鍍連 環境委員会担当副会長 神谷 博行（神谷電化工業(株) 取締役社長）
「一律基準値達成に向けて」



日頃は全鍍連事業運営にご支援、ご協力を頂き誠に有難うございます。

私は全鍍連環境委員会担当副会長を務めさせて頂いておりますので、環境問題について少しお話をさせていただきます。

平成28年の7月ほう素、ふっ素の暫定排水基準が適用・延長されましたが、来年平成31年6月に切れます。全鍍連として31年6月に向け各組合の事業所から提出して頂いた、過去数年間のほう素、ふっ素等の排水濃度調査集計結果をもとに、超過事業所に対し達成するための工程表と対策の提出をお願いしました。

皆様から頂いたデータを全鍍連武田技術顧問がまとめた資料によりますと、ほう素排水処理の問題点としては、凝集沈殿法ではほう素イオンの20倍以上のアルミ塩かマグネシウム塩を添加して吸着除去するには大量のスラッジが発生します。

イオン交換樹脂による吸着処理はランニングコストが高く、高濃度処理には向かない、また設備も高価になる。

ふっ素についてもカルシウム塩を添加して、ふっ化カルシウムとして沈殿除去しても、鉄イオンや硫酸根などが優先反応するために大量のカルシウムスラッジが発生します。

ほう素、ふっ素の対策としては、工程内の汲み出し量の軽減をする。

ニッケルめっき浴のほう酸の標準濃度4.5g/Lから3.0～3.5g/Lにして、PHをPH4に近づける。

ふっ酸やふっ化物浴の低濃度化を考える。ろ過機のろ布洗浄や活性炭置き換えろ過などの残留物・液などの高濃度は外部委託処理や少量ずつ平準化処理する。ふっ酸やふっ化物浴の更新液は外部委託処理や少量ずつ平準化処理をする。

この様に安価な処理技術がない以上大変難しいと考えます。

東京組合の様な都市型（節水型）の排水処理では、一律超過事業所が多く、水量を多く使用して基準値達成を図るには、現在の東京の上下水道料金が約1トン600円になりますので2倍使用すると1日10トン使用して1ヵ月23日稼働で年間約170万円と凄い金額になり純利益が減る事になる。

今後も皆様のお知恵を借りながら活動してまいりますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びにめっき業界の発展とかけがえのない地球環境を守る為、今一度「環境との共生」を考えながら事業活動を進めて

まいります。